

# 「組織再編後における森林事務所の取り組み」

## 地元に着した取り組み

飛騨森林管理署 双六森林事務所 ○ 湯浅 正明  
神岡森林事務所 銅島 悟  
本郷森林事務所 四ツ嶽 誠

### 1 はじめに

国有林野事業の抜本的改革は、2003年（H15年度）に集中改革期間を終了、その結果、森林管理署はより中心的な市町村へ、森林事務所は便利な市街地へ移転し、国有林が所在する地域との遠距離化が進みました。

また、職員の生活基盤も都市在住型に変化し、単身赴任や通勤などの勤務形態が多くなってきたことから、地域で開催される行事への参加も非常に少なくなり、地域との関わりがますます希薄になってきています。

地域の人達も同様に生活基盤が都市にあって、森林への関心が低くなってきており、国有林との関わりの希薄化に拍車をかけています。

その一方で、環境教育の一環として森林教育への注目が集まるなか、小中学校から森林教室の開催要請が年々増加しており、当署で発表した「森林教室の継続性に関する一考察」をうけて、署一体となって対応しています。

簡素で効率的な体制となった今、名実ともに「開かれた国有林」の実現に向けた、森林事務所の取り組みを報告します。

### 2 考え方

地域との連携を図り、地域の要望に応えた活動をするために、

- (1) 前任者より引継いた NPO 等関係団体と積極的な関わりを持ち、情報の収集と国有林の取り組みについて情報を提供する。
- (2) 地域での各行事（清掃活動や神社祭礼・出初式等）で案内があったものについては積極的に参加し、情報収集と情報提供を図る。
- (3) 市町村・林業関係団体が主催する行事に積極的に関わる。
- (4) 森林事務所が関わる行事について、報道機関に情報を提供する。
- (5) 国・県出先機関との交流を図り、情報の共有化を進める。
- (6) 旧神岡署管内の森林事務所の情報共有化を図るため、窓口となる森林事務所を設ける。

(7) 森林教室等、取組事項は記録し共有化を図る。

### 3 取り組み内容

#### (1) 山之村小中学校

山之村小中学校とは、旧組織時代から植樹祭等で関わりをもってきました。

しかし以前と同様の対応をとることが難しくなってきたため、学校周辺の山林を使用した体験学習ができないのか提案したところ、平成 14 年度からは「生活科・総合的な学習」に森林アドベンチャーとして学校主催行事に取り入れられ、継続した取り組みを実施しています。

国有林のフィールドだけに囚われることなく活動することがポイントです。

森林アドベンチャーとの関わり方ですが、「フィールド内にどのような施設を作るのか」、「どんな遊びがしたいのか」は、全て児童生徒が決めます。

森林官は、子ども達と一緒に楽しみ、児童生徒が困っている時や尋ねられた時に的確にアドバイスすることが基本となります。

これらを通して森林の働き等を交えながら答えます。



小学校高学年・中学生による遊び場連絡通路の整備



小学校低学年の森の材料を使った絵画

児童生徒の企画をうけ、それにできるだけ応じられるように、ルート設定や材料の調達等必要事項について、先生・児童生徒達と事前の打ち合わせに十分時間をかけるように配慮しました。

#### (2) 神岡青年会議所

分収造林契約者の神岡青年会議所は、毎年、山を見る会を主催しており、旧組織時代から森林教室等で関わりを持ち続けています。



左切り抜きは「この木・なんの木？（木の名前クイズ）」を行っている様子ですが、昨年と同様のゲームであったためか、反応は低いものとなりました。

今後に向けて、近くにある天然林を活用し、森を散策しながらネイチャーゲームを行うなど取組の工夫が必要です。

一方、主催者側は新聞社と関わりが深く、毎年取材を受けていますが、自分達の取り組みを公表

できる絶好の機会なので、国有林の概要、分収造林の規模やその意義など事前に準備し丁寧に対応することが必要です。

### (3) NPOへの情報提供



左写真は、NPO神岡・町づくりネットワークが、行政を巻き込んで神岡町内を流れる高原川沿いに整備した遊歩道「ガオロの道」です。より多くの人に訪れてもらえるように、道沿いの森林整備や活用方法について相談を受け、間伐の考え方や道を活用した森林教室を提案しています。

### (4) 林業技術検討会

豪湿雪地帯における除伐作業方法について、富山森林管理署 長棟国有林内の既設試験地で、有用広葉樹の適正な保残方法について、請負業者を交え検証し導入を試みました。

管内いたる所で熊の被害が見られたことから、獣害対策に積極的に取り組まれているメーカーへ被害状況の情報を提供し、トウモロコシを原料とした生分解性の素材を使用した製品を国有林において試験しました。



ネット取り付け状況



取り付け終了後の状況

これらの試験については経過観察を続け、効果が上がればその技術を内外に普及していく考え

です。

このほか、神岡町林業研究クラブが行っている管外視察について、飛騨市神岡振興事務所よりフィールド提供等の依頼を受け、森林技術センターの試験地視察を企画し、国有林の幅広い取り組みを紹介することができました。

#### (5) 山田小学校



神岡町林業研究クラブと神岡振興事務所は、毎年小学生を対象に林業体験学習会を開催しています。

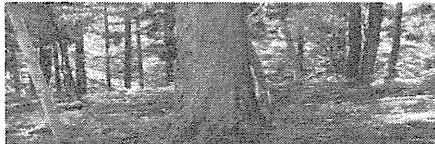
子供たちは森林の散策等を通じ、自然とふれあい、森林の大切さを学んでいます。

写真は神岡町林業クラブ会員、神岡振興事務所職員、森林官が説明役となり、神岡町有林内に設定された「教育の森」で森林散策を行っています。

森林教室 屋外マニュアル

##### ポイント1 (スギ植林木の樹皮割)

森林は、動物や植物の大事なすみか  
この傷は癒がつかないもの、皮を剥いて中側の乗らかい皮と樹液をなめます。  
春の食べ物が少ない時期に多い行動です。  
彼らのためにも森林は大切に守り育てることが必要となります。



##### ポイント2 (水溜)

森林は水を貯える  
森林の土の中には、木の根や大小の土壌動物がつくった隙間がいっぱい、そのため雨水がとてもしみこみやずいのです。ちょうど大きなスポンジのようなもので、雨水がたっぷりとしみこんで貯えられます。森林は「緑のダム」なのです。

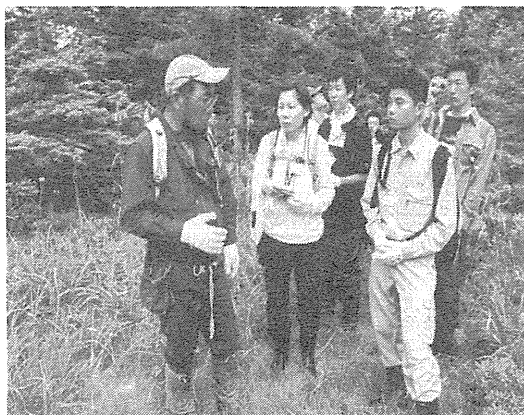


事前に主催者側と森林官で散策するポイントを決めマニュアルに沿って森林の働きを説明・体験できるコースを設定しました。

森林事務所独自で企画する指導普及等の業務には限界があるので、主催者側でもスタッフになって頂くことを目的に作成しましたが、スタッフとのリハーサルが、時間不足により、できなかったため説明に統一性を欠きました。

十分なりハーサルが必要であり、同じ認識の下で協力を得ていくことが必要です。

#### (6) 国土交通省神通川水系砂防事務所等



平成15年度国土交通省神通川水系砂防事務所主催の「キャンプ in 砂防」のカリキュラムに森林の機能を盛り込んでいただくよう働きかけ、山之村の国有林で自然、文化、歴史について案内しました。

森林官が国有林内にある貴重な深洞湿原を歩きながらキャンプ生（大学生）を案内しています。

この関わりを継続させるために、砂防の働きと森林の働きについて、両機関がジョイント方式で案内できるように担当者間で調整を図っています。

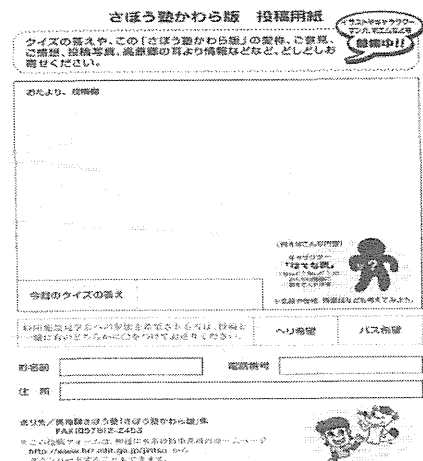
このほかに、環境省中部地区平湯自然保護官事務所との山岳合同パトロール等を行い、山小屋の現

状や地域の要望、また事務所の事業計画など情報交換の場を積極的に設けています。

#### (7) 国土交通省神通川水系砂防事務所広報誌への投稿



さぼう塾かわら版



さぼう塾かわら版投稿用紙

さぼう塾かわら版は、砂防に関する記事ばかりでなく、写真や地域行事などの情報を取り入れる工夫がなされており、地域に密着して親しみやすい紙面づくりがされています。

国有林の取り組みについても、これら広報誌に積極的に情報を投げ入れていきたいと考えています。

取り組みを通じて、自ら足を運び地域の様々の方と接することにより、地域の要請・地域との連携・地域との一体感が身近なものとなってきたと感じています。

#### 4 おわりに

国有林の取り組みを拡充させるために、

(1) 地域で開催する行事に積極的に参加する。

(2) 国・県の出先機関や市町村、NPO 等関係団体と接触を図り多様な立場の意見を聞く。

こうした活動の中で、相手側が主催する行事の情報を得ながら積極的に関わる必要があります。

また、こうした活動で掘んだ取り組みを継続させて行くには、多様な要望に柔軟に取り組む体制づくりが必要であり、これらを整備・定着させる時間が、十分確保できる任期と、確実な引継が必要と考えます。